



## 2023 AUTOBACS SUPER GT Round8 MOTEGI GT 300km RACE REPORT

カテゴリー :GT300  
カーナンバー :9  
エントラント名 :PACIFIC RACING TEAM  
マシン名 :PACIFIC ぶいすぽっ NAC AMG  
タイヤ :YOKOHAMA  
ドライバー :阪口良平、Liang Jiatong  
レースクイーン :Pacific Fairies  
開催日 :2023年11月4日-5日  
会場 :モビリティリゾートもてぎ (一周4.8 km)  
天候 :11月4日☀ (DRY) 11月5日☀/☁ (DRY/WET)  
気温 :11月4日 23℃ 11月5日 23℃  
路面温度 :11月4日 29℃ 11月5日 28℃  
参戦車両数 :GT500/15台 GT300/25台 合計40台  
Best Lap : 1'51.295  
Q1(A Group) :10位/13台  
決勝 :19位/25台



## 事前情報

SUPER GT 2023シリーズではMercedes AMG GT3で参戦。

女性バーチャルYouTuberグループ「ぶいすぽっ！」とタイアップし、スポーティー&ポップなカラーリングで大きな注目が集まる。

Rd.1岡山戦でのクラッシュにより重大なダメージを負ってしまい、Rd.2富士戦は欠場となったが、車両入替でRd.3鈴鹿戦は見事復帰。前回のRd.7オートポリスではテクニカルコースで上位層に肉薄する走りを見せるも、車両トラブルに見舞われ23位と悔しい結果となった。

最終戦の舞台となるモビリティリゾートもてぎはV字コーナーや90度コーナーを有し、「ストップ・アンド・ゴー」と呼ばれ世界的にもブレーキに厳しいサーキットとして呼び声高い。コーナリングの性能や加速力が問われるため、車重のあるAMGにとってはいかに早く立ち上がることができるかがカギとなる。

## 公式予選：Q1 Aグループ



2023.11.4	
14:20-14:30	
Driver	阪口良平
天気	晴れ
路面	DRY
Best Lap	1'47.903
LAP数	5Lap

### ■ 想定外のブレーキトラブルに見舞われ大苦戦、Q2進出はかなわず

GT300クラスの予選はシリーズランキングに基づきA組、B組に分けられる。PACIFIC ぶいすぽっ NAC AMGはA組に区分、13台のうち上位8台に入れば、Q2進出となる。

アタックを担当したのは阪口良平。加減速を繰り返すもてぎのコースに苦戦する中でアタックラップを決めきれず、13台中10番手とあと一步のところまでQ2進出とはならなかった。このセッションで上位8台中4台が同じく1分47秒台を記録していただけに、悔いが残る結果となった。

## 決勝



**2023.11.5 13:06-14:59**

**Driver Liang Jiatong / 阪口良平**

**天気 晴れ / 雨**

**路面 DRY / WET**

**Best Lap 1'51.295**

**LAP数 57Lap(29Lap/28Lap)**

2023シーズンSUPER GT最終戦の舞台となったモビリティリゾートもてぎ。

決勝レーススタート前の気温は23度、路面温度は28度と、薄日の差す天候でありながら上空の一部で黒い雲が広がり、不安定なコンディションを予感させるスタートとなった。

第1戦岡山以来タイヤ交換義務のないことに加え、サクセスウェイトや給油回数の義務もない今戦、求められることはドライバーの周回規定数をクリアすることのみ。タイヤ無交換で63周を乗り切りたいところだが、天候次第で他チームのピット戦略は変わることが考えられる。

20番手スタートとなった9号車、今シーズン最後の決勝レースでステアリングを握るのは攻めの走りが期待されるLiang Jiatong。

序盤はブレーキングポイントが多いチャレンジングなもてぎのコースレイアウトに苦戦しトップとのタイム差が広がっていくが、すぐに走行感覚を掴んだLiangはなんとか食らいつき28LAP目には10位まで浮上。一時は上位と遜色ないラップタイムを記録しバトルを演じた。それでもやや順位を落としつつあった30LAP目、阪口良平と交代し残り半数の周回をベテランに託す。

数々のレースカテゴリに参加し当然もてぎも走行経験の多い阪口、いつもと変わらぬステディなドライブを続けポジションアップを重ねていく。

しかし44LAP目、1コーナーで車両が2台絡む車両トラブルが発生しFCYが導入された際、FCY中の速度違反が認められ痛恨のドライブスルーペナルティを受ける。

それでも易々と下位層に沈むつもりはない。このペナルティでのポジションダウンは1つにとどめ、49LAP目にはトップと1LAPの差が生まれるもののさらなるポジションアップを目指し粘り強く走り続ける。

残り10周を切ったところで突然の降雨によりウェット宣言が出されるもスリックタイヤのまま懸命に車両をコントロール、結果的には19位でチェッカーを受け2023シーズンの最終戦を終えた。

## COMMENT

### エントラント代表 神野元樹

「決勝レースで完走することができたのは、メカニックによる懸命なマシンのセッティングとそれを活かした両選手の走りのおかげだと強く感じています。また、現役学生メカニックが短い時間のなかでノーミスでタイヤ交換を行うなど、レースを引っ張る一員として立派な役割を果たしてくれました。

今季は第1戦岡山でのクラッシュなど波乱の出来事を乗り越え、ドライバー、そしてメカニックのおかげでチーム全体がひとつになって完走することができました。そして何より、今シーズン走り続けることができたのはファンの皆様の熱い応援があったからこそだと思います。一年間応援していただき、本当にありがとうございました。」



### 阪口良平

「走り出しから順調にセットアップが進み良い感触だったのですが予選から車両にトラブルがあり、決勝ではドライブスルーペナルティを取られてしまうなど悔しい部分もありましたが、無傷でゴールすることができて良かったと思います。

思えば開幕戦の決勝でトップ争いをしていたところからの後半、ビックアクシデントに始まり、第2戦では修復が間に合わず欠場とリズムが変わってしまいましたが、最後まで諦めることなくチームで乗り切ることができました。9号車にとっては大変なシーズンでしたが良い時もあったので前向きに進みたいと思います。1年間応援ありがとうございました。」



### Liang Jiatong

「今回シーズン最後のレースでスタートドライバーを務めることができとても光栄です。

自分のステイントではチームのピットストップ戦略のおかげで他車との競い合いを楽しむことができました。

今年日本で活躍する機会を与えてくれたチームにはとても感謝します。」



## PARTNERS



## SPONSORS

